

# 2026年3月期 決算説明会

株式会社 J-MAX

東証スタンダード・名証メイン コード：3422

代表取締役 社長執行役員 山崎 英次

# 報告事項

---

01

2026年3月期決算及び2027年3月期業績予想

02

成長へ向けた取り組みについて

# 報告事項

---

01

2026年3月期決算及び2027年3月期業績予想

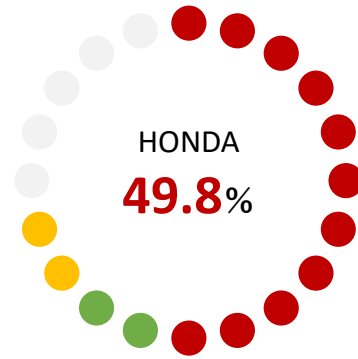
02

成長へ向けた取り組みについて

# 主要客先 (HONDA) 生産状況

## ●当社主要客先比率

TOYOTA **11.2%**  
 NISSAN **10.3%**  
 その他 **28.6%**



### HONDA

本田技研工業(日本)  
 武蔵精密工業(日本)  
 ブルーエナジー(日本)  
 Honda Automobile (Thailand)  
 Thai Honda (Thailand)  
 广汽本田(中国)  
 東風本田(中国) 他

### TOYOTA

アイシン(日本)  
 トヨタ車体(日本)  
 豊通マテリアル(日本)  
 フタバ産業(日本)  
 Gestamp(日本)  
 岐阜車体工業(日本) 他

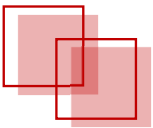
### その他

PPES(日本)  
 GSYUASA(日本)  
 Suzuki Motor (Thailand)  
 DAICEL (Thailand)  
 CATL(中国)  
 小鹏汽車(中国)  
 Valeo(中国)  
 Webasto(中国)  
 吉利汽車(中国) 他

## ●当社拠点HONDA生産台数

地域		2025年3月期 実績(千台)	2026年3月期 実績(千台)	前期比	状況
日本		613	<b>624</b>	+1.71%	鈴鹿全体では減産も VEZEL/N-ONE e、 寄居 FREED/STEP WGNは前期比増加
タイ	四輪	118	<b>110</b>	▲7.1%	汎用エンジンの生産台数は前期比増加も、 四輪向けは国内及び輸出向け共に前期比減少
	汎用エンジン	790	<b>1,029</b>	30.1%	
中国		816	<b>683</b>	▲16.3%	中国全体でのEVシフトは継続しており前期比減少 (ガソリン車工場の一部を26年6月より休止予定)
合計 (汎用エンジン除く)		1,547	<b>1,417</b>	▲6.9%	

HONDA向けの国内生産は一部機種を増産を背景に全体で微増となるも、中国拠点では減産が継続しておりタイを含む主要アジア地域全体での生産台数は今期も前年を下回り▲6.9%の台数減となった(一方、電動化部品の売上増加に伴い、その他の売上占有率は前期比12.4ポイントの増加)



## 2026年3月期 量産開始車種

セグメント	HONDA	その他
日本	* N-ONE e:	【TOYOTA】 * RAV4 【NISSAN】 * ROOX 【MITSUBISHI】 * eK SPACE / DELICA MINI
タイ	-	-
中国	* 焔P7(広州) * 焔S7(武漢)	【TOYOTA】 * 1車種 【孚能】 * 1車種 【CATL(広州)】 * 2車種 【CATL(福建)】 * 12車種 【日産】 * 2車種 【猛士】 * 1車種

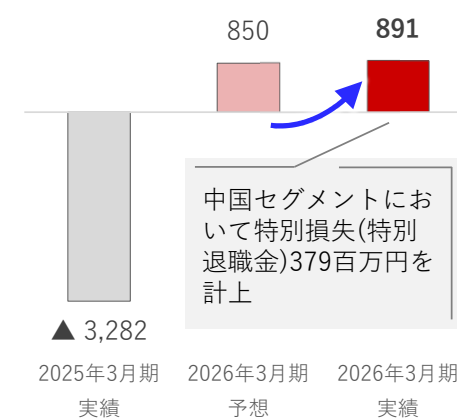
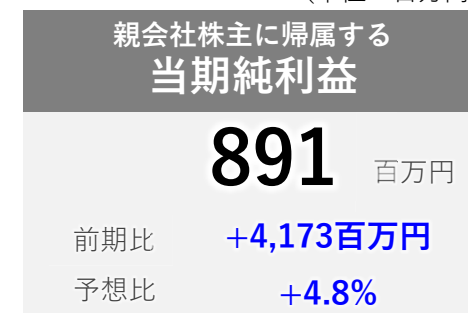
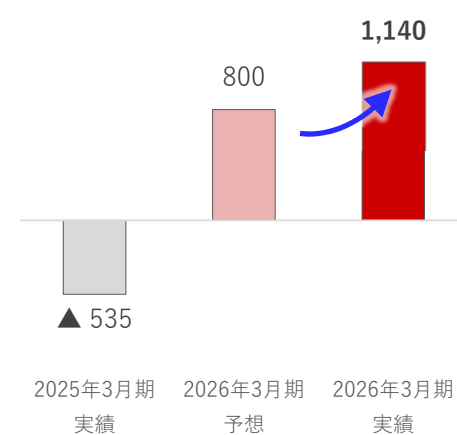
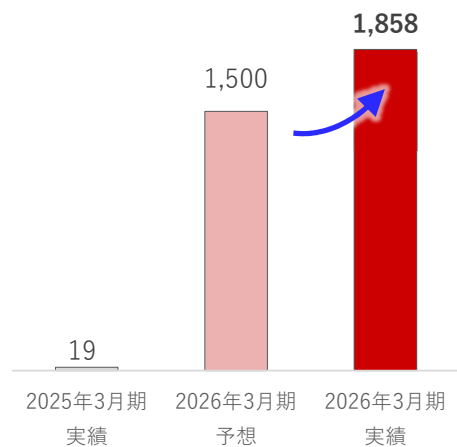
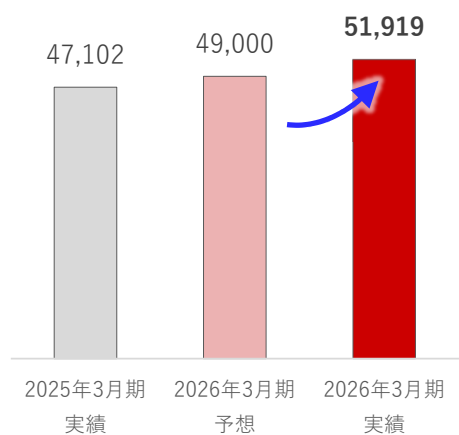
※対象期間 日本：2025年4月～2026年3月、タイ・中国：2025年1月～2025年12月

HONDA向けは、日本で新型BEV車が1機種、中国で次世代EV「焔シリーズ」が2機種と計3機種が量産開始  
その他向けは中国拠点を中心に日系メーカーに限らず、ボディ・バッテリー関連部品の受注は継続的に拡大中

# 連結損益情報



(単位：百万円)

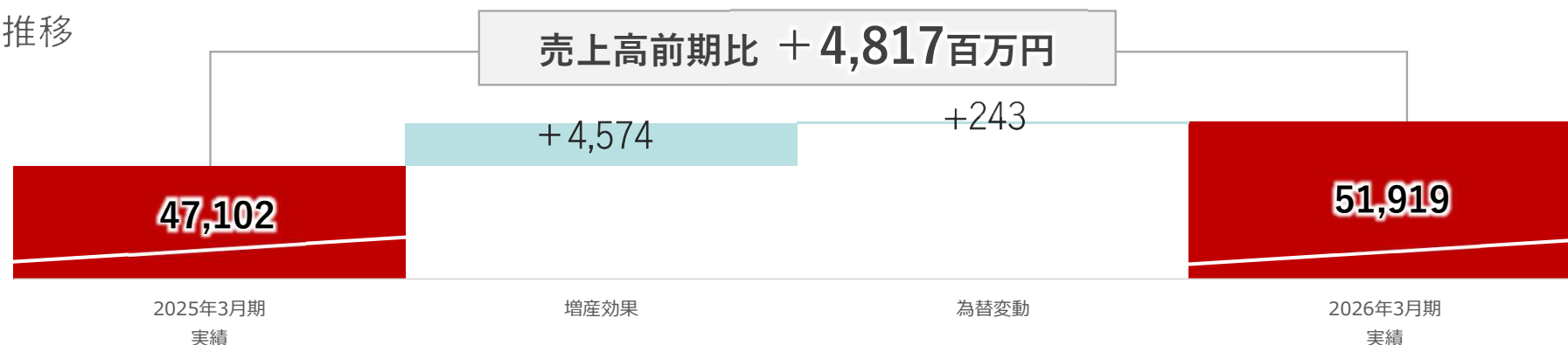


※前期比・予想比は、当期・前期・予想のうち、該当する数値の両方がプラスの場合は増減率、当期・前期・予想のうち、該当する数値の一方若しくは両方がマイナスとなる場合は増減額で記載。

為替レート	2025年3月期実績(円)	2026年3月期実績(円)	増減金額(円)	増減率(%)
タイバーツ	4.30	4.57	+0.27	+6.3%
人民元	21.01	20.93	▲0.08	▲0.4%

# 増減要因

## ◆ 売上推移



中国セグメントにおける電動化部品の増産影響により、増収。

## ◆ 利益推移(経常)



増産影響に加え、前期までに実施した構造改革の継続効果により増益。(黒字化)

## 売上高

19,419 百万円

前期比 +0.1%

## 営業利益

353 百万円

前期比 ▲25.2%

## 経常利益

600 百万円

前期比 ▲20.4%

一部の機種を除き、主要客先向け自動車部品の生産は減少するものの、**新機種立上げに伴う金型設備等の販売が増加したことにより、売上高は前年同期と同水準。**

**岡山工場稼働に伴う一時的な変動費の増加等により営業利益、経常利益ともに減少。**



岡山工場

※前期比・予想比は、当期・前期・予想のうち、該当する数値の両方がプラスの場合は増減率、当期・前期・予想のうち、該当する数値の一方若しくは両方がマイナスとなる場合は増減額で記載。

## セグメント業績(タイ)

### 売上高

5,965 百万円

前期比

▲3.1%

### 営業利益

180 百万円

前期比

+237.1%

### 経常利益

75 百万円

前期比

+168百万円

主要客先向け自動車部品の生産が国内及び輸出向けともに減少したことにより売上高は減少。

前期までに実施した要員適正化及び金型事業縮小等の構造改革の継続効果に加え、エネルギー価格高騰による製品売価の増加等により、営業利益、経常利益ともに増加。



タイ・マルジュン社

※前期比・予想比は、当期・前期・予想のうち、該当する数値の両方がプラスの場合は増減率、当期・前期・予想のうち、該当する数値の一方若しくは両方がマイナスとなる場合は増減額で記載。

## 売上高

**26,911** 百万円

前期比 **+22.3%**

## 営業利益

**1,229** 百万円

前期比 **+1,783百万円**

※営業利益は広州、武漢、福建の単純合計

## 経常利益

**724** 百万円

前期比 **+1,619百万円**

主要客先である日系OEMの減産が依然として継続する中、**車載電池メーカー向け電動化部品が大幅に増産し、売上高は増加。**

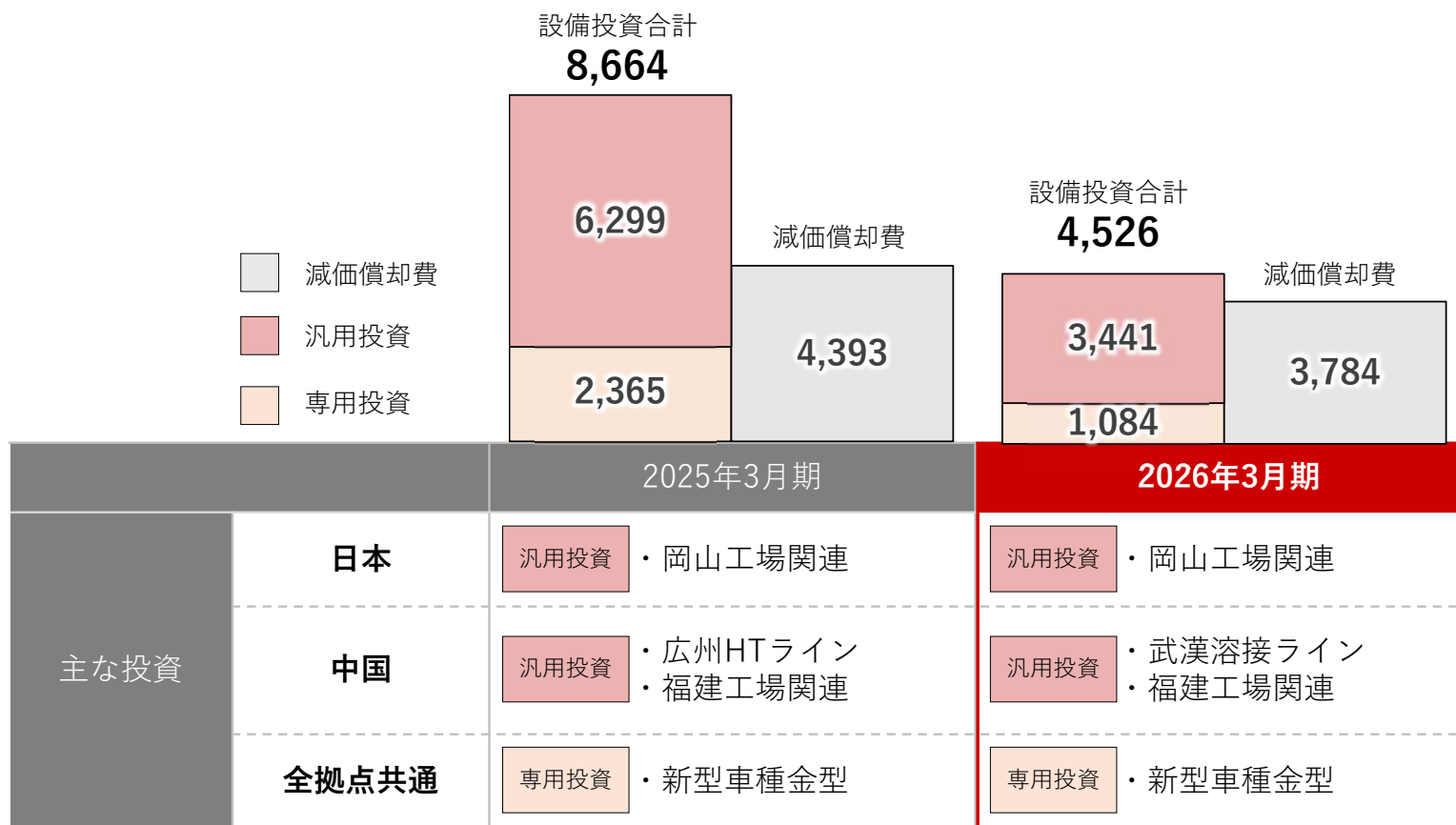
増産影響に加え、前期までに実施した要員適正化及び固定資産の売却等の**構造改革の継続効果**により、**営業利益、経常利益ともに増加。**



福建丸順社

※前期比・予想比は、当期・前期・予想のうち、該当する数値の両方がプラスの場合は増減率、当期・前期・予想のうち、該当する数値の一方若しくは両方がマイナスとなる場合は増減額で記載。

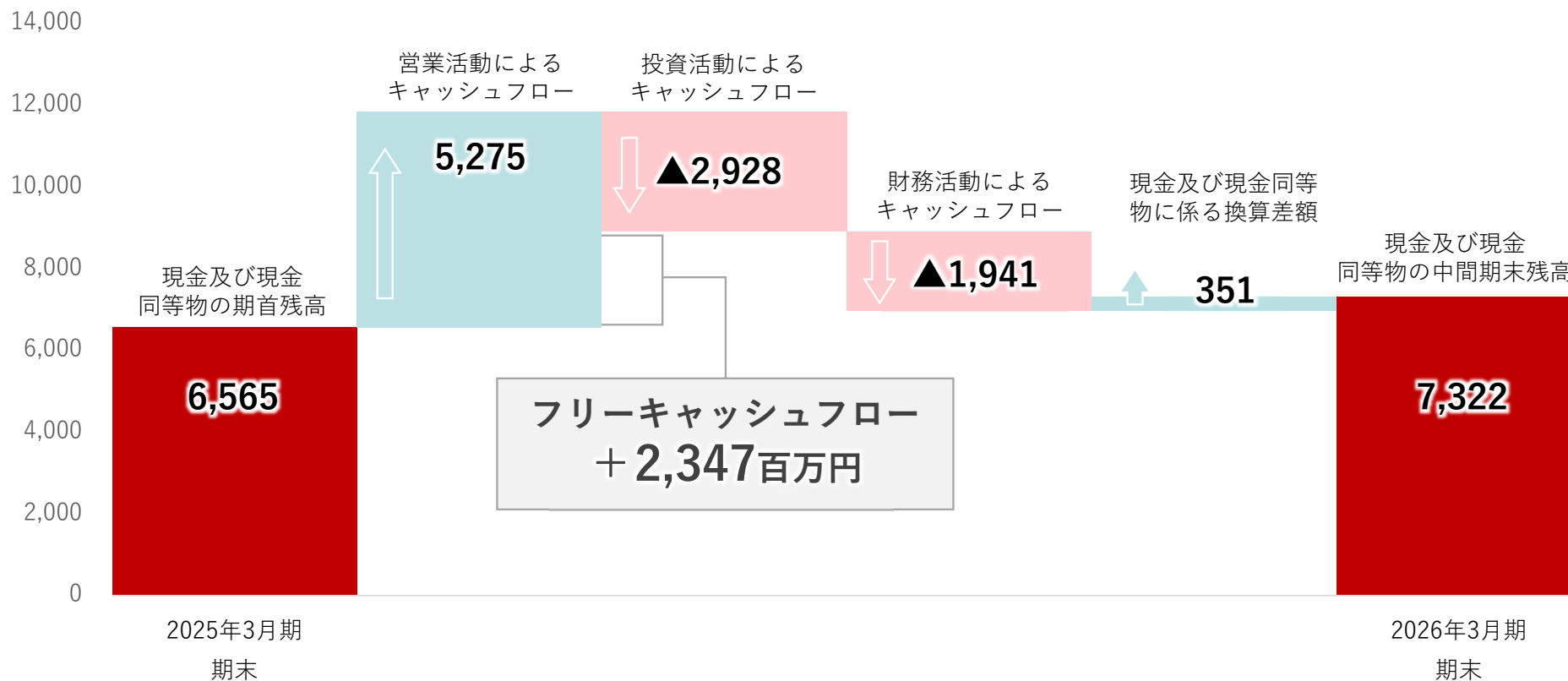
# 設備投資額、減価償却費



日本は岡山工場関連、中国は電動化部品受注に伴う福建工場関連等の中長期的な成長投資を中心に推進。  
 専用投資は、主要客先の開発機種減少により前期比減少。  
 減価償却費は、構造改革(生産能力適正化)の継続効果により抑制。

# 連結キャッシュフローの状況

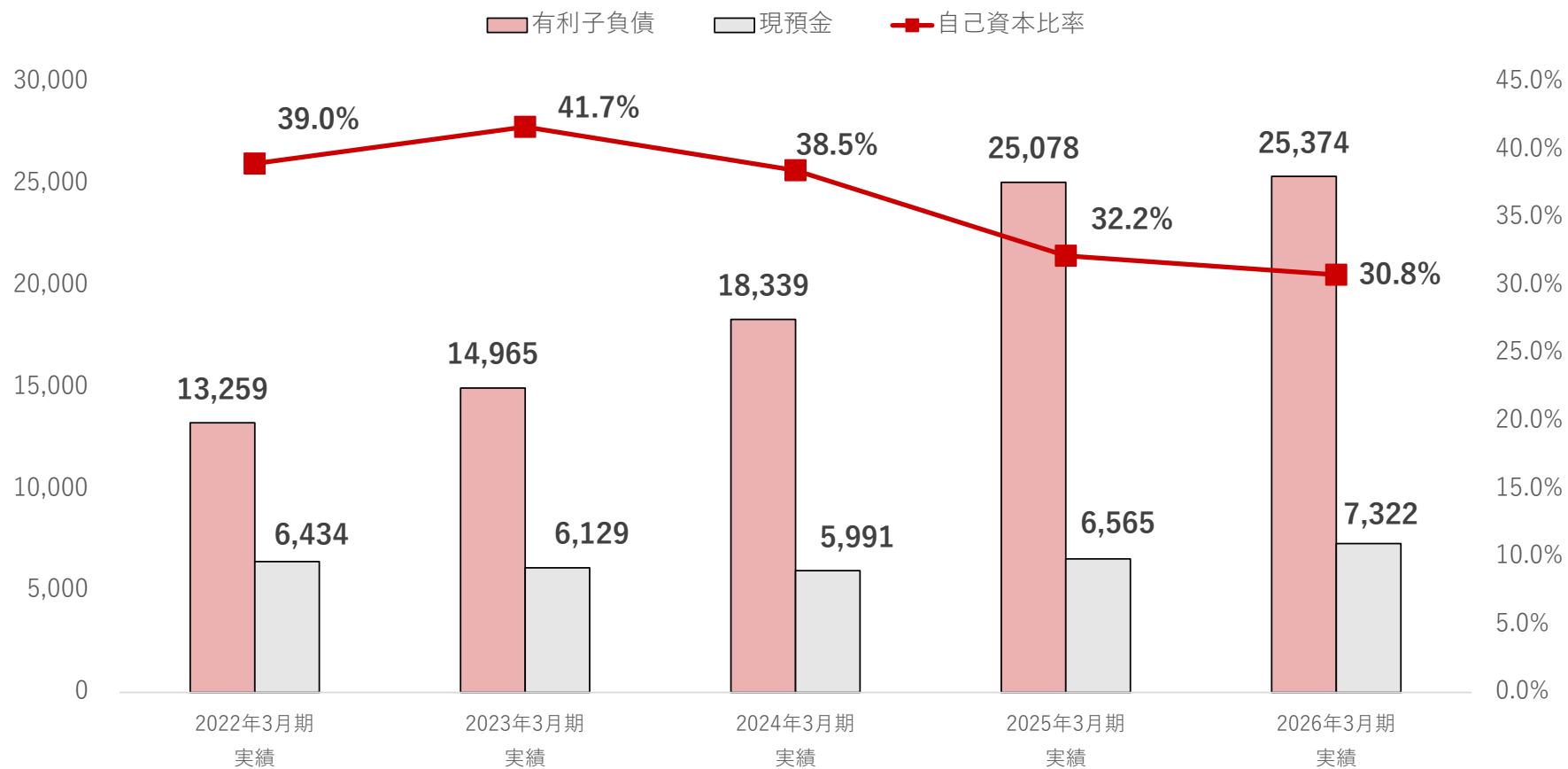
(単位：百万円)



事業構造改革の効果による利益創出に加え、  
投資の抑制等によりフリーキャッシュフローは+2,347百万円

# 財務状況

(単位：百万円)



岡山工場及び中国福建工場立ち上げ等の成長投資により増加した有利子負債は、依然として高い水準で推移  
自己資本比率については、有利子負債の増加により減少傾向にあり、改善が急務

# 通期連結業績予想

- 2027年3月期は、電動化事業の確実な成長を見込んでいるものの、海外を中心とした主要客先の減産が更に進むことを想定。
- 利益については、継続的な原価低減の取組みを推進するとともに、付加価値の高い電動化事業の拡大により前期比増益を見込む。

(単位：百万円)

	2026年3月期 実績	2027年3月期 予想	増減額	増減率
売上高	51,919	50,000	▲1,919	▲3.7%
営業利益	1,858	2,400	+541	+29.1%
営業利益率(%)	(3.6%)	(4.8%)		
経常利益	1,140	1,600	+459	+40.2%
経常利益率(%)	(2.2%)	(3.2%)		
当期純利益	891	1,000	+108	+12.2%
当期純利益率(%)	(1.7%)	(2.0%)		
一株利益(円)	77.66	87.14	+9.48	-

2027年3月期予想 (円)

為替レート

タイバーツ：4.20、人民元：20.00

# 報告事項

---

01

2026年3月期決算及び2027年3月期業績予想

02

成長へ向けた取り組みについて

# 電動化サプライヤーに向けた取り組み

## 日本 GSユアサ向け LEV65 バッテリー拘束体

### リチウムイオン電池 (LEV65) イメージ図

高出力・高耐久を実現する車載用リチウムイオン電池



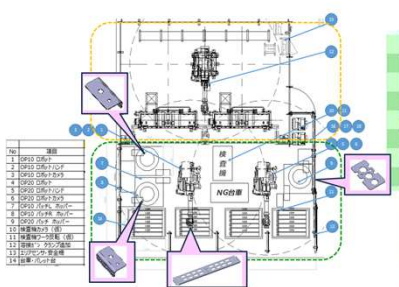
※GSユアサ HPより引用

日本ではGSユアサに対し度重なる試作品供給を経て、**バッテリー拘束体**の新規受注が決定した。本部品はロボットによる**無人溶接ライン**に加え自社開発の**AIシステム(打点欠損検出)**による品質保証を採用する等、最先端の生産ラインにて量産を行っている。

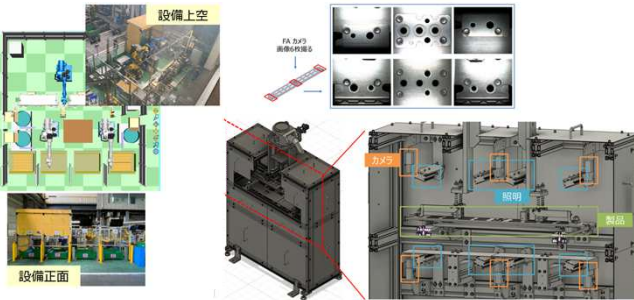
GSユアサ向け 新規受注部品	
部品概要	バッテリーセル拘束体 ※両側面のフレーム部品
部品名	SIDE PLATE ASSY
適用車種	三菱アウトランダーPHEV



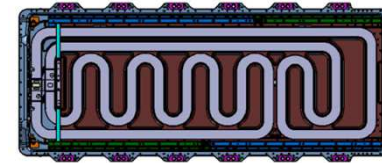
### LEV65 無人溶接ライン



### AIによる打点欠損検出装置



## 中国 CATL向け CE04 バッテリーケース

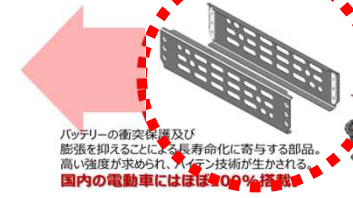


CATL向け 新規受注部品	
部品概要	バッテリーケース ※冷却装置含むバッテリーケース下蓋
部品名	-
適用メーカー	東風汽車、江鈴汽車、吉利汽車他

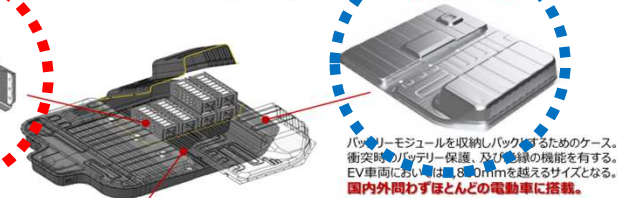
中国では今期より稼働開始した**福建丸順社(F-MAX)**を中心に**電動化部品の受注が拡大**。直近では**CE04 バッテリーケース**を始め、CATL向けに14機種が今期量産開始。中国で深刻化する日系OEMの売上減を補填すべく、この電動化部品は今後グローバルでの主力部品として注力していく。

## 車載電池全方位網(自社開発/共同開発)

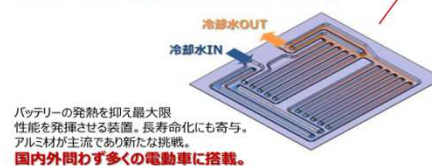
### 拘束体(電池の膨張を抑える)



### バッテリーケース(構成部材)



### 冷却装置(電池の熱を制御する)



### モーターコア部品



# トヨタ向け受注拡大

## 取引先別受注部品ラインナップ (直近事例)

**GESTAMP ※ブランク加工部品 (Bz4x, LEXUS ES他) 日本**



**アイシン ※サンルーフ部品 (Bz4x, RAV4, LEXUS ES他) 日本**



**フタバ産業 ※ボディ骨格部品他 (4RUNNER, RAV4) 日本**



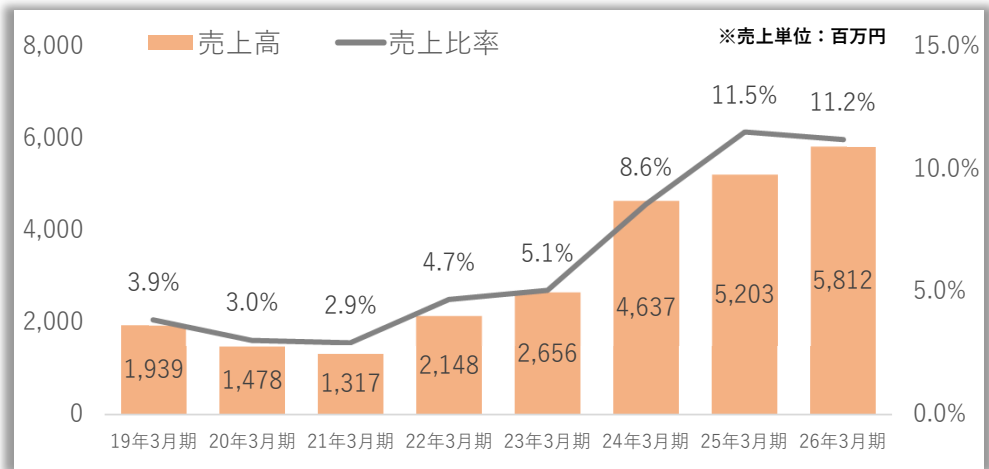
**GTMC (广汽トヨタ) ※ボディ骨格部品/バンパー部品他 (WILDLANDER, Bz3x/Bz4x, 他) 中国**






自社の強みである超ハイテン材を使用したボディ骨格部品の成形技術により、日本・中国において徐々にトヨタ向けの部品受注が拡大。特に日本においては東プレ社との資本業務提携をきっかけにトヨタ向けの部品量産を開始。以降は各社OEMが得意とする部品群にもミートする様保有設備のPRと工程企画力により、複数機種での受注が決定。トヨタ機種の受注拡大によりグローバルで更なる売上規模の拡大を目指す。

## トヨタ向け連結売上高 / 比率推移



## 工程企画による受注事例(トヨタ向け部品)




980材 t1.2

原料	下型	FC300	上型	FC300	曲げ	下型	FC300	上型	FC300	曲げ	下型	FC300	上型	FC300
鋼材	FC650	鋼材	DCMX	鋼材	PAD	FC650	鋼材	DCMX	鋼材	PAD	FC650	鋼材	DCMX	鋼材
熱処理	HV0	スタンパ	DCMX	熱処理	HV0	スタンパ	DCMX	熱処理	HV0	スタンパ	DCMX	熱処理	HV0	スタンパ

**J-MAX**

製品 55791/2-42040 COVER, COWL REINFORCEMENT, UPR RH/LH



11° 角度差

**OtonTRF 5工程** □加工費 1/2 □型数 9型削減

**設備仕様差による型数(型費)の削減や歩留まり改善提案等、明確なコストメリットを提示する事でトヨタ系OEMより新規受注獲得**

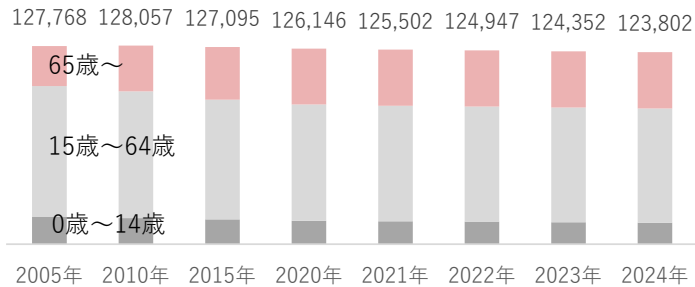
# 持続可能な社会の実現に向けた取り組みについて

## <外部環境> 社会・地域からのニーズ

### ●人口推移（2005年～2024年）

（単位：千人）

※総務省データからグラフ化  
※10月1日時点の人口推移



- 総人口減少傾向  
約3%減少
- 65歳以上増加傾向  
約40%増加
- 0～64歳減少傾向  
約12%減少

### ●「みんなの廃校」プロジェクト

※文部科学省ホームページより抜粋



少子化に伴う児童生徒数の減少等により、全国では毎年約450校程度の廃校施設が生じている。廃校施設は地方公共団体にとって貴重な財産であり、地域の実情やニーズを踏まえながら有効活用していくことが求められている。

文部科学省では、2010年に「～未来につなごう～みんなの廃校プロジェクト」を立ち上げ、廃校施設の活用を推進中。

### ●行政（大垣市）からの提案

2024年4月から大垣市上石津地区の小中学校が統合再編されることに伴い、小学校の校舎利活用を検討  
→地域活性化への貢献  
→雇用機会の提供

旧大垣市時小学校



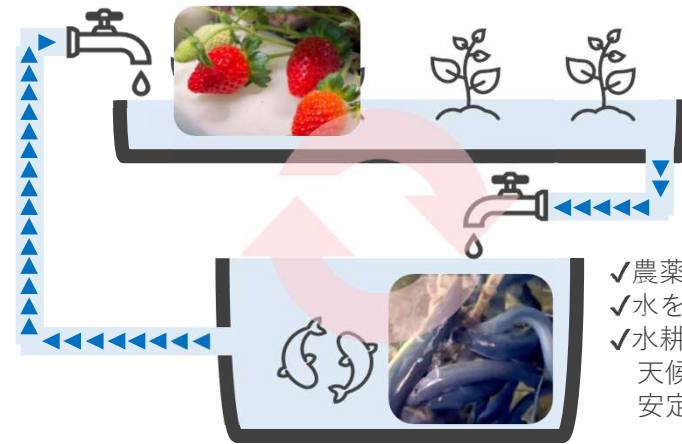
魚を育てると野菜が育つ。小さな生態系を再現。

## 循環型農業（いちごとうなぎ）

実証  
実験中

### ●循環型農業（アクアポニックス）の仕組み

魚（うなぎ）を育てた栄養のある水で野菜（いちご）を育てる



- ✓農薬を使わない
- ✓水を捨てない
- ✓水耕栽培により天候に左右されない安定生産を実現

#### 地域貢献

雇用創出による  
地域経済の活性化  
特産品化による知名度向上

#### 環境・SDGs

循環型農業による  
環境負荷を大幅低減  
農業人口減少に対応

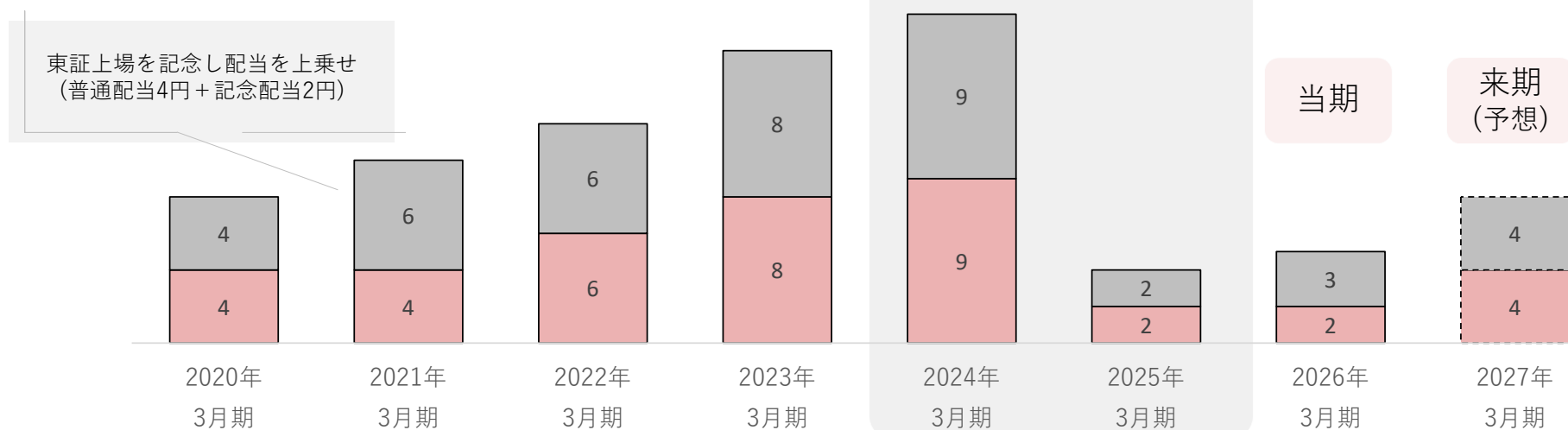
#### 食の安全

化学肥料不使用の  
安全・安心な食材提供  
による食料安全保障

循環型農業を通じて社会に貢献する  
（定款の一部変更を予定）

当社を取り巻く環境は主要客先の減産が継続している等、依然として厳しい状況が続いており、今後の事業環境の不確実性が増しております。しかしながら、2026年3月期の業績は、成長戦略として掲げてきた電動化事業拡大の効果が徐々に現れ始めており、前年実績及び前回発表予想を上回る結果となったことにより株主還元充実の観点から、当期末の1株当たりの配当金を直近の配当予想から1円増配の3円とさせていただきます。

## 配当の推移



# 技術で夢を

-Make our dreams by Technology-

## ▼ WEBSITE

HP ▶ <https://www.jp-jmax.co.jp>



J-MAXグループ  
全体の情報を  
網羅的に発信中！

## ▼ OFFICIAL SNS

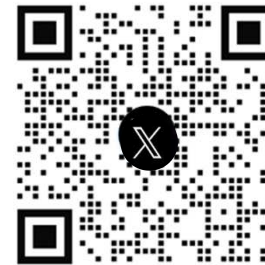
YouTube ▶ @J-MAX3422



IR情報を中心に  
動画で情報発信中！

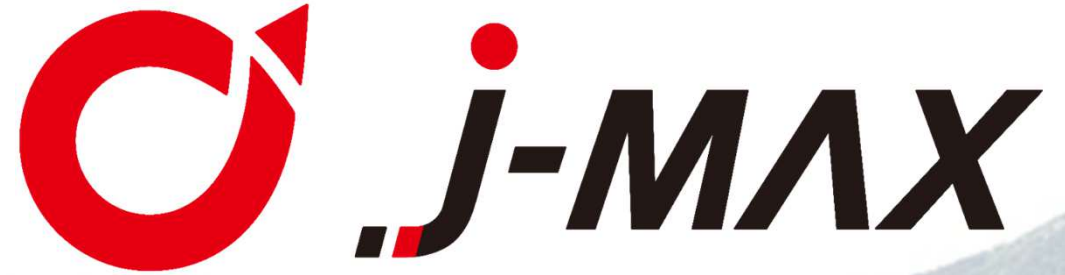
## ▼ OFFICIAL SNS

X(旧Twitter) ▶ @J\_MAX3422



最新情報を  
写真付きで発信中！

この資料は、株式会社J-MAX（以下、当社）の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。当資料に記載の内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成したものであり、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更する可能性があります。また、将来に関する記述については、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの内容とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。



ご清聴ありがとうございました

株式会社 J-MAX

(東証スタンダード・名証メイン コード：3422)